



頑張る女性の仲間づくりのために！

## 「志布志市ファーマーズ女子会」

農林漁業に従事する女性たちの多くは、これまで「生活改善グループ（現：生活研究グループ）」という組織に属し、同じ環境で働く女性たちで集い、農山漁村の暮らしを、女性の力で今よりも豊かに、より良くするために「ということ」をテーマに、積極的に悩みや課題を解決して、乗り越えてきました。

農林漁業は、法人でない限り、「個人」での経営になるので、自分から積極的に外に出て行かなければ、家族以外の誰かと交流する機会はなかなかありません。しかし最近では、核家族化が進んだことや、個々の経営形態が多様化していることなどの社会的背景もあり、グループに新しく加入する方が少なくありません。会員の高齢化も進み、会の今後の存続も危ぶま

れていきます。経営部門や活動する地域が違って、同じ「農業」に従事する者として、仲間の活躍には刺激を受けず、参考にしてお互いが高め合っていくこともできます。

そこで今年8月、



農政課では、市内で農業に従事する若い女性たちを対象に、経営部門を越えて交流、懇談をする場「志布志市ファーマーズ女子会」を開催しました。集まった女性たちは、20代〜40代までの青年女性農業者と、アドバイザーとして50代〜60代の女性農業者です。先輩方の手作りの美味しいお茶と茶菓子を楽しみながら、和やかな雰囲気の中で「今、輝いてますか？」をテーマに懇談しました。

自分自身が農業に従事するようになったきっかけや、現在農業に取り組んでいて一番楽しいことや、現在抱える不安や悩みを語りました。会が終わった後も、会場の外では参加者同士で子育ての話や農業の話など会話が弾み、一番の目的である「仲間作り」のお手伝いができたようでした。

市では今後も輝きながら農業に従事し続けるためのきっかけ作りができる機会を設け、良い仲間作りが出来るお手伝いをしていきます。

会では次のような意見交換が活発に行われました…

- 農業を含め、フルタイムで働く女性の子育てを支援してくれる「病児保育」をしている病院があるのはとても助かる。このような場所をもっと増やし、女性が安心して働ける環境が整えば、もっと農業の楽しさを次世代に伝えていけると思う。行政のバックアップがもっと欲しい。
- 10年後の自分はどうなっているのかを考えた時、農業を頑張る、輝いた姿でいたいと思う。そのためにどうすればいいか、このような会に積極的に参加して、情報収集や意見交換を行ってきたい。
- 自分たちが育てた作物や家畜が、期待以上の高値で取引された時、とても喜びを感じ、「農業をやっている良かった」と感じる。こういった喜びや、やりがいを外に向けて発信できれば、未来の農業が明るくなるのでは。

「農業女子」の皆さんが、更なる飛躍を目指し、女性の能力を積極的に活かした経営のステップアップを目指す際、市では相談を受けたり、情報を収集したり、助言を行うなどの支援を行っています。

その結果、女性の活躍に憧れ「私も農業に携わりたい」と職業に「農業」を選択する若い世代の女性の増加が図られることを期待しています。

これまで農業に携わってきた大先輩と、農業に夢や希望を抱く若者のチカラをひとつに『志布志市の農業』をより一層盛り上げていきましょう。

**「認定農業者制度」や「家族経営協定書」の活用**

農業経営の目標に向けて、自らの創意工夫により、経営の改善を進めようとする認定農業者の認定において、現在は男性単独の申請が大半ですが、少しずつ女性の単独申請や、男性パートナーと女性が共同申請を行う件数が増えてきています。

また、意欲とやり甲斐を持って経営に参画できる姿を目指し、経営方針や役割分担、働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いで取り決める家族経営協定の締結件数も増加しています。これは女性や後継者が役割を担い、経営に積極的に関わっていることの表れです。

**『志布志市の農業』をより一層盛り上げたい！**

■ 問い合わせ先…農政課 農政係  
TEL 474-1111 (内線425-426)

「家族で経営」  
脱サラからの農業に  
挑戦中！  
challenge!



「数年前まで、農業とか全く関係ない会社員だったんですよ、うちの主人。もちろん結婚するときは、農業するなんて話、全く聞いていませんでした」と笑顔で話してくれる福留愛さん。3人の子育てをしながら、松山町で甘しょと大根を栽培するご主人を支えています。

「主人のおいしい甘しょ農家なんです。会社勤めをしながらも将来は農業をするって思っていたみたい。最初にその話を聞いたときはびっくりしました。でも本人がこんなに農業をやりたがっているんだし、いいかなって。一緒に頑張ろうかなって思ったんです」。

しかし最初は生活への不安が大きかったそうで「始めたころは心配事は絶えずありました。子どももいま

したし」と当時を振り返る愛さん。しかし現在は仕事も軌道に乗り、心配は全く無くなったそうです。家族経営の良いところは、「自由がある程度きくところ」と話す愛さん。「子どもの保育園の行事にも積極的に参加できるし、家族との時間を大切にできているなあって実感しています。主人とは仕事でも一緒に、2人で仕事の話ができて、すごく楽しいし、嬉しいですよ」

面積拡大や機械化、従業員の年間雇用など、ご主人と2人で描く夢への挑戦は始まったばかりです。

「仕事やめて、農業する」って、やっぱり不安でした。  
でも今は、2人で仕事について話せることが嬉しい。

ふくどめ あい  
福留 愛 さん (32)  
家族経営



写真右…ご主人と共に機械に乗り、作業する愛さん。繁忙期にはご友人にもお手伝いをお願いすることがあり、非常に助かっています。

写真左…ご主人、3人のお子さんと一緒に。ご主人の子育てへの理解と協力は誰にも負けません！家族みんなで頑張ります！

